

思考力・判断力・表現力の基盤となる 言語の能力の育成に関する研究

－児童生徒の発達の段階に応じた言語活動に視点を当てて－

義務教育研究係 長期研修Ⅰ研修員
清水賢治 佐藤三枝子 小須田健志



研究のねらい

PISA調査・
全国学力・学習状況調査

学習指導要領の改訂

「確かな学力」向上計画
(群馬県)

平成20年全国学力・学習状況調査の本県
と全国の結果（平均正答率）の比較

			本 県	全 国	差
小 学 校	国 語	A問題	66.2	65.4	+0.8
		B問題	50.0	50.5	-0.5
		B－A	-16.2	-14.9	
	算 数	A問題	72.7	72.2	+0.5
		B問題	50.8	51.6	-0.8
		B－A	-21.9	-20.6	
中 学 校	国 語	A問題	75.6	73.6	+2.0
		B問題	63.6	60.8	+2.8
		B－A	-12.0	-12.8	
	数 学	A問題	65.4	63.1	+2.3
		B問題	52.1	49.2	+2.9
		B－A	-13.3	-13.9	

思考力・判断力・表現力をはぐくむことが課題

情報を取り入れ、自己内で知識や経験と照らし合わせて理解する
自分の考えや気持ちを整理する
考えや気持ちを交流し合い深める

言葉を使用

本研究では、言語の能力を育成する

- ・ 効果的な授業の構成
 - ・ 指導の工夫
- について提言します

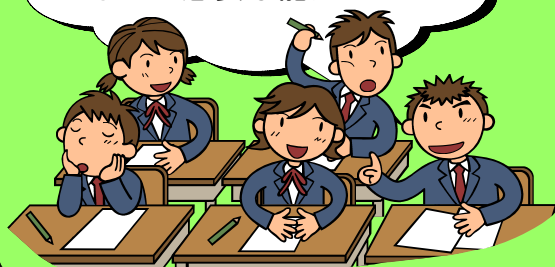


思考力・判断力・表現力の
基盤となる言語の能力の育成



言語の能力とは

自らの考えを深め、他
者とコミュニケーションを
行うために言語を運用す
るのに必要な能力



考える力
分析力・論理
構築力などを
含む、論理的思考
力

感じる力
感じ取った
り、感動した
り、できる情
緒力

言語の能力

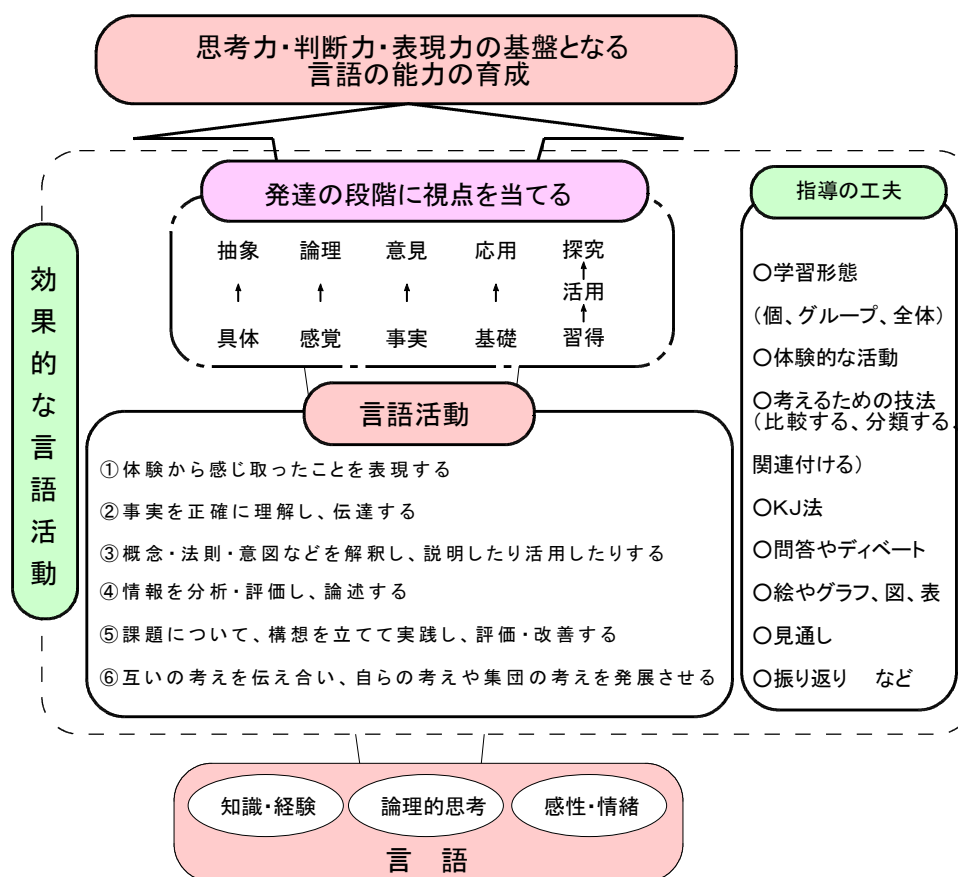
想像する力
頭の中でイメ
ージを自由
に思い描くこ
とのできる力

表す力
考え、感じ、
想像したこ
とを必要な
表現力

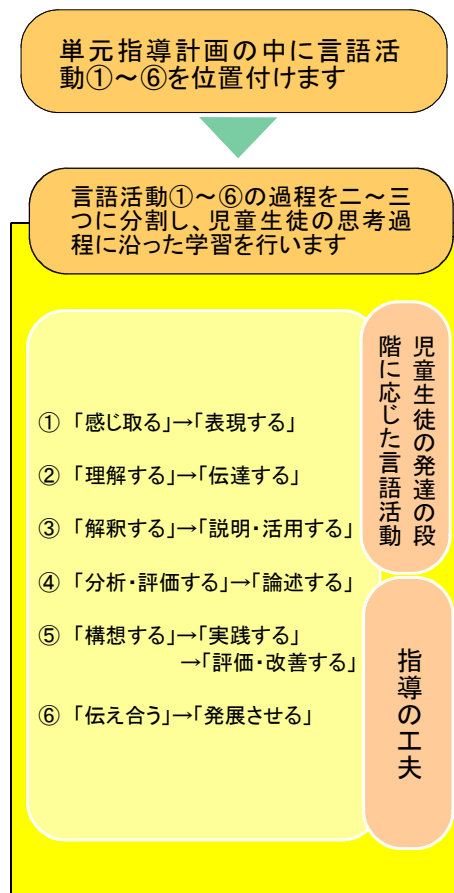
児童生徒の発達の段階

	具体→抽象	感覚→論理	事実→意見	実践
小学校 低学年	○具体的な思考ができる ◇事実の正確な理解・記録・伝達が重要	○体験したことや自分の気持ちを子どもなりの表現で伝え合ったり、話し合ったりできる	○観察・見学・事象から事実をよみとり表現できる	基礎 習得
小学校 中学年		↓		↓
小学校 高学年	○形式的・抽象的思考ができる ◇概念の意味を理解したり、概念に基づいて説明したりすることが重要	○多面的・多角的に見ることにより論理的な思考ができる	○具体の世界から抽象の世界に渡って、意図の推測ができる ◇目的的行为の説明をすることが重要	活用
中学校	○より高度な形で自分なりの考えを形成することができる ◇読解し、評価し、自分の考えを論述することが重要	↓	○問題・仮説・検証過程の表現や留保条件付きの判断ができる	応用 探究

研究構想図



授業の構成





児童生徒の発達の段階に応じた言語活動の重点

言語活動		① 体験から感じ取ったことを表現する	② 事実を正確に理解し伝達する	③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする	④ 情報を分析・評価し、論述する	⑤ 課題について、構想を立てて実践し、評価・改善する	⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる
発 達 の 段 階	国語科による各教科の基盤となる言語に関する基礎的な知識・技能 国語科における能力の育成	○音読・暗唱などの技能 ○感性・情緒と関連した表現・修辞を理解する技能 ○喜怒哀楽などの感情を、言葉とともに身体などを使って表現する技能 ○古典文学作品を通した伝統や文化的背景に関する知識	○事実と意見を区別して説明する技能 ○漢字・語彙・文法などを適切に使う技能 ○記録・描写など事実を正確に伝える技能 ○レジュメ、物語のあらすじなど、情報を要約して伝える技能	○抽象的な用語の意味を理解して説明する技能 ○視点を変えたりほかの事象と関連付けたりして、多面的・多角的に物事を見て、的確に分析する技能 ○相手・目的・場面に応じて適切に説明する技能	○結論を示した上で、その判断の基礎となる考え方を根拠をもって説明する技能 ○文章の形式や内容について、既得の知識や自らの経験などに照らして評価を行った上で論述する技能 ○複数の媒体やテキスト等を活用して、媒体の特性を踏まえて情報を評価する技能	○討論、議論などを通じて、建設的な合意形成を目指した言語活動をする技能	
	小学校 低学年	見たことや知らせたいことを記録し説明や紹介をしたり、体験したことを報告したりすることができる能力	体験的・具体的な活動の中で気付いたこと、感じ取ったことを記述・報告する	体験的・具体的な活動を通して、そこに見られる変化やきまりを見付け、説明したり活用したりする	体験的・具体的な活動を通して、違いを見付け、気付いたことを述べる	自分の思いをもって体験的に学習を進め、その結果を振り返る	体験的・具体的な活動を振り返り、気付いたことを発表し合う
	小学校 中学年	調べたことや観察・実験したことを記録・整理し、説明や報告にまとめて書き、資料を提示しながら発表することができる能力	具体的な活動や調査活動の中で調べたこと、考えたことを表現する	具体的な活動や調査活動を通して、調べたこと、考えたことを記述・報告する	二つの事象の関連をとらえ、考えたことを説明したり活用したりする	学習課題に対して、比較したり、関連付けたりしながら調べ、考えを述べる	学習に見通しをもつて進め、その結果を評価する 調べたこと、考えたことを発表し合いまとめたり、意見を述べたりする。
	小学校 高学年	目的に応じて自分の立場から解説や意見、報告を書き、理由や根拠を示しながら説明をすることができるとともに、自らの言語活動を振り返ることができる能力	学習活動の中で考えたこと、相手に伝えたいことを理由や根拠を示しながら、表現する	課題を調べる活動を通して、考えたこと、相手に伝えたいことを理由や根拠を示しながら、記述・報告する	幾つかの事象を組み合わせた、事象間の変化の規則性に着目したりしてとらえ、理由や根拠を明確にしながら考えたことを説明したり活用したりする	学習課題に対して、関連付けたり、条件に目を向けたりしながら調べ、多面的に考えたことを筋道立てて述べる	様々な条件に着目しながら計画的に見通しをもって学習を進め、結果を評価・改善する 考えたこと、相手に伝えたいことをもとに理由や根拠を示しながら話し合い、帰納的に考えまとめる。
	中学校	社会的な事柄を含む広い範囲から課題を見付け、根拠を明確にしながら自分の考えを簡潔にまとめて記述したり、多様な文章や資料の形にまとめ、分かりやすく発表したりすることができる能力	学習活動の中でもった自分なりの思いや考えを根拠を明確にしながら、簡潔に分かりやすく表現する	課題を調べる活動を通して、導き出されたことに根拠を明確にしながら、自分の考えを加えて記述し、報告する	事象間を関連付けて考察し、根拠を明確にしながら分かったことを自分の解釈を加えて説明したり、活用したりする	学習課題に対して、関連付けてとらえたり、分析・解釈したりして調べ、考察したことを自分の言葉でまとめ演繹的に論述する	課題を見付け、見通しや目的意識をもって学習を進め、その結果を解釈し、評価・改善する 自分の考えの根拠を明らかにして簡潔にまとめて、説明し、集団の考えを発展させる

授業実践① 小学校3年(社会)

単元「スーパーマーケットではたらく人」(全15時間)

単元構成

時	学 習 活 動
1	提示した食材の買い方を考える(単元の導入)
2	買い物調べの結果から、スーパーマーケットが多く使われていることを理解する
3 4 5 6 7 8 9 10	見学の課題の設定と見学の計画を立てる スーパーマーケットの見学をする 調べたことをまとめて、発表する
11	商品の産地を調べる
12	売り場の配置の工夫を考える
13	消費者のねがいと販売者の工夫の関係を考える
14	スーパーマーケットのリサイクル活動を理解する
15	学習したことを生かして、導入で行った食材の買い方を考える

言語活動⑤
「課題について、構想を立てて実践し、評価・改善する」

言語活動④
「情報を分析・評価し、論述する」

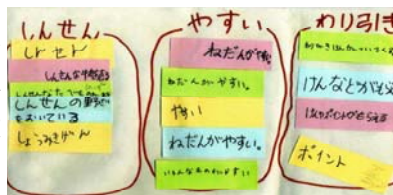
言語活動⑤の実践

構想する

発達の段階に応じた言語活動

- ・具体的な活動を通して気付いたこと、感じ取ったことを記述する
- ・比較したり、関連付けたりしながら課題をまとめる
- ・課題について考えたことを基に話し合う

児童が気付いたこと、感じ取ったことをふせんに書き、KJ法で分類した例



指導の工夫

- ・スーパーマーケットへ行った経験を思い出させワークシートに書かせる
- ・記入したふせんをKJ法でまとめる
- ・各自が考えたことを書き出してから、グループで話し合うようにする

KJ法でまとめた五つの課題
・値段が安いのか
・食品は新鮮なのか
・いろいろな食品があるのか
・売り場が工夫されているのか
・売り方を工夫しているのか

設定した課題について調べる内容を考え、見学の計画を立てる

課題設定と計画の立案のために、考えたことを書いたり、それらを話し合ったりして「考える力」が伸びた

実践する

発達の段階に応じた言語活動

- ・調べたことと考えたことを分けて記述する
- ・調べたことを正確に記録する

見学でワークシートに記録している様子



調べて分かったことと考えたことを分けて、調べたことを正確に記録することにより「表す力」が伸びた

指導の工夫

- ・調べたことと考えたことについて書く欄を分けたワークシートを用意する

活用したワークシートの一部

調べたこと	発見したこと	考えたこと
商品のなすべがた	しゃりによっておくはしきかんがえておいている	お客さんにかりやすさを考えているのかな
いろいろな売場	ふくろにのこくさいいりていろいろとだけであっていろいろあった	いろいろと入った人のためにいろいろと入ったものをいろいろと入った人に見せるようにしてあげたいと思う
自由にえらんでかえる	色々なかき(物)はえらんでかえる	色々な物だけとえらうようにしてあげたいと思う

評価・改善する

発達の段階に応じた言語活動

- ・調べたことを基に、考えたことを記述する
- ・まとめたことを発表する

自分のまとめたことを発表している様子



指導の工夫

- ・まとめの型を示す
- ・関連のある写真を提示しながらグループで発表し合う

調べたことを基に考えを記述したり、発表用の文にまとめ発表し合ったりすることにより、「考える力」「表す力」が伸びた

言語活動④の実践

分析・評価する

発達の段階に応じた言語活動

- ・資料から事実をよみとる
- ・発表し合いまとめる

児童がよみとった事実

- ・肉の売り場のあるところが同じ
- ・魚の売り場が角にある ・お菓子が同じところにある
- ・野菜と魚の売り場が並んでいる
- ・魚、野菜、肉、お寿司や弁当は外側にある …

野菜・果物・肉売り場が広い通路に沿って並んでいる

指導の工夫

- ・日常生活における経験と結び付け、二つのスーパーマーケットの売り場の配置に着目しながら比較をして共通点を見付ける
- ・同じような意見はないか意識させる

資料を比較しながら事実をよみとってまとめることにより「考える力」が伸びた



児童が資料からよみとった事実を記述している様子

論述する

発達の段階に応じた言語活動

- ・理由を考え、書き出す
- ・考えたことを発表し合いまとめる

児童が考えた理由及びまとめた内容

- 【お客さん】
- ・野菜・魚・肉と並んでいると買いやすい …
- 【お店の人】
- ・新しい商品に入れ替えるときに、仕事しやすい
- ・商品が置きやすい …

売り場の並び方は、買いやすいように、仕事しやすいように工夫されている

指導の工夫

- ・売り場の配置がそのようになっている理由を「お客さん」や「お店の人」の視点から考え、書くようにする

「お客さん」や「お店の人」の視点から売り場の配置の理由を考え、発表し合い関連付けることにより「考える力」が伸びた
考えたことを書き出し、発表し合うことにより「表す力」が伸びた

授業実践② 小学校6年(理科)

単元「水溶液の性質とはたらき」 (全13時間)

単元構成

次	時	学 習 活 動
1次	1～4	水溶液には気体や固体が溶けているものがあることを理解する
2次	5・6	水溶液には、酸性、中性、アルカリ性のものがあり、リトマス紙で判別することができることを理解する
3次	7～10	水溶液には、金属を変化させるものがあることを理解する
発展	11～13	学習してきた知識・技能を活用して、無色透明の水溶液を特定する

言語活動④

「情報を分析・評価し、論述する」

言語活動⑤

「課題について、構想を立てて実践し、評価・改善する」

言語活動④の実践

分析・評価する

発達の段階に応じた言語活動

- ・反応の様子を正確に記録する
- ・反応の様子を根拠に、水溶液の中で起こっていること(金属の質的変化の概念)について考え、言葉や図で表す

反応の様子を根拠にして、言葉で分析しながら図に表したもの

抽出児童 A
☆アルミニウムが泡に変化し、出ていく考え

<言葉で分析>

- 浮く → 溶けて軽くなった
- 泡 → 金属が溶け、泡に変わった



抽出児童 B
☆アルミニウムが残っている考え

<言葉で分析>

- 透明 → 細かくなり、散らばった
- 泡 → さびが泡になった
- 動き → 細かく散らばって軽くなった



反応の様子を根拠に言葉で分析しながら図に表すことによって、概念についての理解が深まり「想像する力」が伸びた

指導の工夫

- ・アルミニウムが塩酸に溶ける反応の様子をワークシートに短い文で記録する
- ・言葉で分析しながら、図に表す

論述する

発達の段階に応じた言語活動

- ・理由や根拠を明確にしながら考えたことを説明する
- ・実験結果を基に、帰納的に考えをまとめ、記述する

学習を振り返り、自分の考えの高まりをワークシートにまとめたもの

- ・アルミニウムは、塩酸に溶かすと別のものに変化することが不思議に思った
- ・アルミニウムのまま残っていると思っていたけれど、別のものに変化していた

指導の工夫

- ・言葉での分析や図を提示しながら説明する
- ・黒板に予想を表明し、そのことを確かめる実験をする

理由や根拠を示しながら説明したり、実験結果を基に、金属が水溶液によって別のものに変化した様子を説明したりすることにより「表す力」が伸びた

言語活動⑤の実践

構想する

発達の段階に応じた言語活動

- ・無色透明の水溶液を特定する実験方法を考え、説明する

指導の工夫

- ・学習内容を活用しながら、実験方法とその結果の予想を表にまとめる
- ・小グループで話し合い、その後、グループ間で交流する

グループ間で自分たちの考えた方法を説明している様子



学習内容を活用しながら、実験の計画を立てることにより「考える力」が伸びた

実践する

発達の段階に応じた言語活動

- ・根拠を明確にしながら考え、報告する

指導の工夫

- ・実験の結果と、結果から考えられることを表にまとめる

評価・改善する

発達の段階に応じた言語活動

- ・幾つかの事象を組み合わせ、根拠を明確にしながら考えたことを説明する

指導の工夫

- ・表を横に見たり、縦に見たりできるワークシートを準備する

分担した実験結果を報告し合い1枚の紙にまとめたもの

調べる方法	A	B	C	D	E	考えられること
蒸発	白い粒が のこる	なにもない	なにもない	白い粒が のこる	なにもない	Aは食塩水 Dは石灰水
リトマス紙	中性	酸性	酸性	アルカリ性	アルカリ性	Aは食塩水
におい	なし	なし	した。 (おろ)	なし	した。 (おろ)	Eはアンモニア水
石灰水を入れる	どうも 濁る	白くた る	どうも 濁る	なし	なし	Bは炭酸水
	食塩水	炭酸水	塩酸	石灰水	アンモニア水	

- 水溶液Aの正体は→食塩水
- ・蒸発させると白い粒が残ったから
- ・リトマス紙が変化しないので中性だから
- ・においもしなかったから

※水溶液B、C、D、Eについても実験結果を組合わせて考えていた

表を横に見たり、縦に見たりして多面的に考え、根拠を明確に示しながら水溶液を特定することにより、「考える力」が伸びた

授業実践③ 中学校2年(理科)

単元「動物の体のはたらき」(全10時間)

単元構成

時	学 習 活 動
1	頭骨を観察し、そしゃくについて考える
2	デンプンが糖に分解される実験計画を立てる
3	実験計画に沿って実験を行い、まとめる
4	いろいろな消化酵素のはたらきについて知る
5	生きるためのエネルギーについて考える
6	ブタの心臓を観察し、血液循環について考える
7	モツゴの尾びれを観察し、毛細血管について考える
8	血しょうのはたらきを理解する
9	不要な物質の排出の仕方を理解する
10	器官のはたらきを関連付けて説明する

言語活動⑤

「課題について、構想を立てて実践し、評価・改善する」

言語活動⑥

「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」

言語活動⑤の実践

構想する

発達の段階に応じた言語活動

- ・根拠を明確にしながら簡単にまとめる

指導の工夫

- ・だ液によって、デンプンが糖に分解される実験計画を図や文に表現する
- ・小グループで話し合う

大事なことを図や文でまとめた実験計画例

①同量のデンプン溶液が入った試験管A, イを用意する。
②Aにはうすめただ液を、Iには水を入れる。
③40℃で10分間 あたためる
④A, Iの溶液を2つに分け、A-1, A-2, I-1, I-2とする。
⑤A-1, I-1にヨウ素液を加え、反応を見る。
⑥A-2, I-2にはベンゼン液を加えて加熱する。

知識を活用しながら実験計画を立てることにより、「考える力」が伸びた

実践する

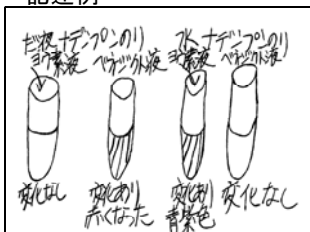
発達段階に応じた言語活動

- ・明らかになったことを正確に分かりやすく記録する

指導の工夫

- ・実験結果を図や表や文にまとめる

実験結果を図にまとめた 記述例



実験結果を文にまとめた 記述例

A-A: ベンゾエ酸を入るとオレンジ色になった。
 A-B: ヨウ素液を入っても変化がなかった。
 I-A: ベンゾエ酸を入ると赤く変化した。
 I-B: ヨウ素液を入ると、とてもいい青い色を

実験結果を表にまとめた記述例

	ア-A	ア-B	イ-A	イ-B
オオ漢		<u>変化なし</u>		<u>変化あり</u> (オオオオ)
オオハ漢	<u>変化あり</u> (オオハハ)		<u>変化なし</u>	

オ-Aとイ-Bは変換、イ-Aとオ-Bはオ。
オオハジ → オオ漢の漢語がオオオオ → 漢語がオオ
オオオオオオ... デンペンがオオオオ。

各自がまとめやすい方法にまとめることにより「表す力」が伸びた

発達段階に応じた言語活動

- ・自分の言葉でまとめ、演繹的に論述する

指導の工夫

- ・実験結果を関連付けて考え、根拠を示しながら自分の考えを書く

根拠を基に自分の考えを記述したワークシート例

実験の結果から、イのけんかん(デンア^ン溶液+水)はデンア^ンがなくなり、糖ができるということがわかった。
イのけんかん(デンア^ン溶液+水)は、デンア^ンがそのままのこっていても変化がなかった。このアセイの力がくさると、水が入るとは変化がなかったけれど、水が入っているアはデンア^ンがなくなり、糖に変わったので、水は、デンア^ンを糖にかえる力があるといえる。

結果を関連付け、根拠を示しながら表現することにより「考える力」が伸びた

言語活動⑥の実践

伝え合う

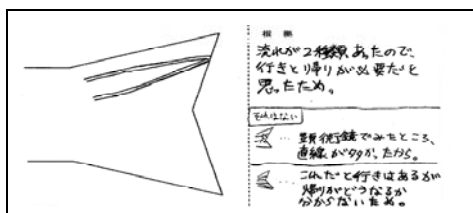
発達段階に応じた言語活動

- ・根拠を明確にしながら自分の考えを簡潔に記述し、報告する

指導の工夫

- ・自分の生活経験や知識と結び付けながら考える
- ・観察結果を言葉で分析しながら図に表す

自分の考えを図と文で書き表したワークシート例



自分の生活経験や知識と結び付け、言葉で分析をしながら図に表すことにより「想像する力」が伸びた

発達段階に応じた言語活動

- ・友達の意見を理解し、評価し、自分の考えを論述する
- ・保留条件付きの判断をする

指導の工夫

- ・比較したり、関連付けたりする
- ・全体で話し合う

生徒の考えを分書割
類分けした板その割
の様子
合



- | ① | ② | ③ |
|---|--|--|
| ① 顕微鏡で見たとき2股に分かれていたから、網目状になっているだろうと考えた生徒(18名、47%) | ② 流れる向きの違う2種類の血管があったから、Uターンして戻ってくるだろうと考えた生徒(12名、32%) | ③ 骨に沿って筋状のにびていたから、まっすぐであろうと考えた生徒(8名、21%) |

- ①毛細血管は、体の隅々まで血液を運ぶため枝分かれしている
②隅々まで行った血液は、また戻ってくる

モツゴの尾びれの毛細血管は枝分かれした後、先端部分でUターンして戻ってくる

意見を理解し、評価し、関連付けたり、保留条件付きの判断をしたりすることにより「考える力」が伸びた

発展させる

研究のまとめ

成 果

- 言語活動①～⑥を二～三つの過程に分割したことにより、学習の進め方が明確になるとともに、児童生徒の思考に沿った学習展開となり、授業のねらいを達成する上で有効であった
- 発達の段階に応じた言語活動を取り入れたことで、児童生徒の言語活動が無理なく行われ、話合いや思考が深まった
- 次の指導の工夫を行ったことが、言語の能力を育成することに有効であった

言語の能力	指 導 の 工 夫
考える力	・既習事項や日常生活における経験と関連付けたこと ・事実を表やグラフにまとめたり、図に表現したりしたこと ・個人の考えを書いて明確にした後、グループで交流したこと ・考える視点を与えたこと ・比較したり、分類したり、関連付けたりしたこと
感じる力	・体験活動をしたこと ・共通点・相違点を意識させたこと ・感じ取る視点を明確にしたこと
想像する力	・事実を基に言葉で分析をしながら想像したこと ・想像する視点を明確にしたこと
表す力	・表現する視点を明確にしたこと ・記入しやすい形式にワークシートを工夫したこと ・まとめの型を提示したこと ・発表する内容を書かせてから発表させたこと ・言葉と図で表現させたこと ・小グループでの活動を取り入れたこと ・授業を振り返り自己評価やまとめを記入させたこと

- 調べたことをまとめる場面で、国語科で学習したまとめについての型を児童生徒に示したことにより、全児童生徒が調べたことをまとめることができた

課 題

- 言語活動④～⑥について、検証授業を行うことができたが、言語活動①～③について、行うことができなかった。また、検証授業を行った学年と教科においても、小学校第3学年の社会、第6学年の理科、中学校第2学年の理科というように偏りがあった。今後、他の学年や教科等においても検証授業を行い、研究を更に深めていきたい
- 小学校低学年においては言語活動①②、中学年においては言語活動②、高学年においては言語活動③④、中学校においては言語活動④⑤⑥を意図的に取り入れ、身に付けさせる必要がある
この言語活動①～⑥の相互の関係及び言語活動①～⑥と発達の段階との関係を更に明らかにしていきたい
- 言語活動①～⑥のそれぞれを活発に行うためには、どのような指導の工夫が必要であるのか、更に分析的に調べて、それぞれの言語活動に対する指導の工夫を具体的に明らかにしていきたい

提 言

授業の構成の工夫

- ◆ 単元（題材）の目標を達成できるように言語活動①～⑥を単元（題材）指導計画に位置付けましょう
- ◆ 言語活動①～⑥を行うときは、その過程を二～三つの過程に分割して、児童生徒の思考に沿った言語活動を行いましょ
- ◆ 言語活動を充実させていくために、児童生徒の発達の段階に応じた言語活動に着目して行いましょ
- ◆ 発達の段階には個人差があることを考慮しながら、「発達の段階に応じた言語活動の重点」を参考に言語活動を構成していきましょう

指 導 の 工 夫

- ◆ 言語活動を通して育成される言語の能力を明確にして、授業を行っていきましょう
- ◆ 言語活動において活用する知識や技能を事前に学ばせてから、言語活動を行っていきましょう
- ◆ 初めての言語活動を行うときには、ワークシートを工夫したり、表現のときの型を示したりしていきましょう
- ◆ 児童生徒が発表する前に自分の考えを整理したり明確にしたりすることができるよう、書く言語活動を取り入れていきましょう
- ◆ 児童生徒が交流後に振り返り、自分の考えの高まりに気付く場面を設定していきましょう
- ◆ 児童生徒の思考の整理を助け、言語活動を活発に行えるようにするために、表にまとめさせたり、図に表させたりしていきましょう
- ◆ 発表する児童生徒の言語活動をしやすくし、聞く児童生徒も理解しやすくするために、資料や図、表を提示しながら説明や発表をさせていきましょう
- ◆ 小グループの学習形態をなるべく多く取り入れ、児童生徒の発表し合う言語活動を活発にしていましょ
- ◆ 児童生徒が経験したことがない学習を行うときは、体験的な学習を行い、その体験を基に言語活動を行っていきましょう
- ◆ 国語科における言語活動との関連を図り、言語活動が活発に行われるようにしていきましょう

問い合わせ先 群馬県総合教育センター
担当係：義務教育研究係 0270-26-9213(直通)